

部局名	総務企画部	所属名	総合企画課 国際推進室	所属長名	堀谷 修	電 話	483-1151 内線2337
-----	-------	-----	-------------	------	------	-----	-----------------

1. 事務事業の位置付け・概要（PLAN）

コード	3666		事務事業名称	八千代こども国際平和文化基金積立金						短縮コード	経常		臨時	3666
予算区分	会計	01	一般会計	款	12	諸支出金	項	01	基金費	目	04	八千代こども国際平和文化基金費		
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他				根拠法令等		八千代こども国際平和文化基金の設置、管理及び処分に関する条例							
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）														
国が提唱した「ふるさと創生1億円」対象事業として、平成元年度から実施。														
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測					総合計画の施策体系	6本の柱（章）	07	計画の推進のために						
利率の低下により、果実の減少となる。						大項目（節）	01	市民主体による自主的な行政経営						
						中 項 目	02	第2章地域の視点に立った主体的なまちづくりの推進						
						小 項 目	02	(2) 平和と交流によるまちづくりの推進						
						細 項 目	02	②市独自の国内外との交流によるまちづくりの推進						
					実施計画の計画事業									
計画事業の位置付けの有無				☐	計画事業期間		～			計画事業費		千円		

2. 事務事業の目的・指標・実績（DO）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	八千代こども国際平和文化基金							
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成23年度に実際に行ったこと： 1億円の基金を運用して生じた利子を、八千代こども国際平和文化基金事業に充てる。							
	※平成24年度に計画していること： 元本を活用し、八千代こども国際平和文化事業と青少年交流事業の一部を行う。							
意図 （何を狙っているのか）	基金を、こどもによる国際交流を通じて、国際平和及び国際文化交流に貢献し、並びに本市域の国際化を促進する事業の資金に充てる。							
ねらい（上位施策の意図）	入力対象外							
区 分				単位	22年度	23年度		24年度
					実績	計画	実績	計画
対象指標	指標1	年度当初の八千代こども国際平和文化基金現在高	千円	100,000	100,000	100,000	100,000	
	指標2							
	指標3							
活動指標	指標1	運用によって得た利子の積立額	円	1,400,104	1,201,000	808,456	200,000	
	指標2							
	指標3							
成果指標	指標1	発生した利子の事業費に占める割合	%	25.5	20.2	15	2.7	
	指標2							
	指標3							
上位成果指標	指標1							
	指標2							
	指標3							

コード	3666	事務事業名称	八千代こども国際平和文化基金積立金				所属名	総合企画課 国際推進室
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☐ 改革・改善して継続			推進にあたっての課題を担当課が解決するまで、現状のまま継続する。			
		☐ 手法プロセスの改革・改善						
		☐ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☐ その他							
	☐ 廃止・休止							
☐ 事業完了								
☒ 現状のまま継続								
⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			基金の目的に即した事業の企画・立案及び基金の管理を行なっていくため。		
			削 減	不 変	増 加			
	成 果	向 上	☐	☐	☐			
		不 変	☐	☒	☐			
		低 下	☐	☐	☐			

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
基金を使う事業について、現在行われているタイ王国バンコク都との交流事業だけでなく、他の事業にも基金活用を検討できないかという意見があった。									

所属長コメント	現在の経済状況では、利子による積立金の増額は見込めない。基金の目的に即した事業に元本を活用していく。								
評価調整委員会評価	☐ 改革改善して継続			担当課の評価のとおり、現状のまま継続とする。なお、基金の目的に即した事業への活用を図ること。					
	☐ 手法プロセスの改革・改善								
	☐ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
☐ その他									
☐ 廃止・休止									
☐ 事業完了									
☒ 現状のまま継続									